

病院のかかり方

子どもは急に熱をだしたり、ぐったりすることがあります。その時は**冷静な判断が必要です**。

子どもは急に熱を出したり、具合が悪くなる場合があります。ママと一緒に、子どもの状況を的確に把握し、子どもの症状に応じて、医療機関を受診するのかを判断しましょう。

上手な受診の仕方

①日ごろから子どもの様子を観察しておきましょう

「いつもと様子が違う」その感覚が、子どもの病気を早期に発見するきっかけとなります。「食欲はあるか」「機嫌はどうか」「ウンチはどうか」など日ごろから観察しておく、ちょっとした変化に気づきやすくなります。



②かかりつけ医（ホームドクター）を持ちましょう

子どもの様子は、幼いときほど個人差が大きく、また、成長とともに変化していきます。それらの変化を把握し、日ごろから気軽に相談や指導を受けられるかかりつけ医を持ちましょう。

他の診療科や総合病院での受診が必要であれば、かかりつけ医に紹介してもらいましょう。

③できるだけ診療時間内に受診しましょう

診察には、医師だけでなく、看護師、検査技師、薬剤師など多くのスタッフが関わっています。昼の診療時間内には、それらのスタッフが揃っているので、検査、投薬などもスムーズに受けられます。すぐに救急外来を受診しなくてもよい時は、通常の昼間の診療時間に受診しましょう。

「昼間は仕事があるから」「夜間の方が空いているから」などの理由で、軽い症状でも病院の休日や夜間の救急外来を受診する方が増えています。そのため、救急外来が混み合い、本当に重症で救急対応が必要な患者さんの診察が遅れるなどの重大な結果を招きかねません。休日や夜間の救急外来は、本当に必要なときのみ利用するようにしましょう。

④子どもの様子を知っている人が病院に連れて行きましょう

受診時に、日ごろの様子や今の症状について説明する必要があります。受診の際は、子どもの様子を知っている人が、病院に連れて行きましょう。また、症状や経過、飲んでる薬などをメモしておく、受診時に役立ちます。

受診時に持って行く物

●病院に持って行く物

- ・母子健康手帳
- ・健康保険証、乳幼児医療費受給資格者証
- ・診察券
- ・お薬手帳
- ・病気の経過を書いたメモ

●病院に持っていくと役に立つ物

- ・着替え
- ・オムツ
- ・タオル、バスタオル
- ・ティッシュペーパー
- ・ビニール袋
- ・待ち時間のための絵本、おもちゃ など



お薬手帳は、いつ、どこで、どんな薬を処方してもらったかを記録しておく手帳のことです。複数の医療機関を受診する時や、転居した時など、『お薬手帳』を見せるだけで、子どもの薬のことをわかってもらえます。薬の重複やよくない飲み合わせの未然防止、同じ薬による副作用の再発防止など、より安全に薬を使用することができますので、積極的に活用しましょう。

困ったときの情報窓口

●小児救急の夜間医療電話相談

夜間の子どもの急病時、病院へ行った方が良いかどうか判断に迷った時にご利用ください。

電話番号	相談対応時間	内容
#8000 (携帯電話、プッシュ回線の場合) ※ダイヤル回線、IP電話からは、0985-35-8855をご利用ください。	毎日 午後7時～翌朝8時	小児科医の支援体制のもとに、看護師から子どもの症状に応じた適切な対処の仕方や、受診する病院等のアドバイスを受けられます。 ※通話料は利用者の負担になります。

●在宅当番医等の情報ホームページ

ホームページ	アドレス	内容
みやざき医療ナビ (宮崎県)	http://www.e-navi.pref.miyazaki.lg.jp/	在宅当番医や休日夜間急患センターを検索できます。また、指定した日時に診療している医療機関、歯科診療所、薬局を探すこともできます。
こどもの救急 (日本小児科学会)	http://kodomo-qq.jp/	夜間や休日などに病院を受診するかの目安を、お子さんの症状別に提供します。